

komuna organo de: KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de: KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 804 februaro 2018

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyō, Naruto-si,
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

ENHAVO

第2回日韓共同開催エスペラント大会を成功させよう
..... 木元 靖浩 1-2
初心者のための語尾なし単語の使い方 (62)..... 相川 節子 2
楽しい作文教室 (78)..... 塚本 猛 3
Kajero Libervola: Ĉu la homaro povas progresi al
eterna paco?..... YAMAGUTI Sin'iti 4
モバード俳句 (55)..... 広高 正昭 5
対訳: 源氏物語 第15帖 蓬生 (5)
..... 紫式部 / belmonto 6-7
動詞仮定法について (1)..... 沖 恵明 8-9
追悼: 深堀さん、長い間ありがとうございました
..... 盛脇 保昌 10
Salono: 図書館を訪問して..... 野村 忠綱 10
La Movado: 各地でザメンホフ祭、ほか..... 10-13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績 14
Mikspoto / KLEG 事務局だより / 作文教室課題 15
編集ノート 16

縁深い奈良の都で日本大会+韓国大会

第2回日韓共同開催エスペラント大会を成功させよう

木元 靖浩 (関西エスペラント連盟組織部長)

本年10月12日(金)~14日(日)に第2回日韓共同開催エスペラント大会が奈良で開催されます。この大会を2018年に日本で行うことは既に日韓で話し合われていました。2016年、近江八幡市で第103回日本エスペラント大会が開催された際、ソウルで世界大会(UK)が開催される前年であることから、参加を促すため韓国から数人の参加がありました。この機会をとらえて、日韓で開催地を相談した結果、奈良が第一候補となったのです。地元実行委員会(Loka Kongresa Komitato=LKK)は通常地元のエスペラント会が中心となって作ります。奈良市には奈良エスペラント会があるのですが、その責任の大きさから関西エスペラント連盟(KLEG)がその役割を引き受けることとして、奈良市内の奈良県文化会館で開催することになりました。

第1回日韓共同開催エスペラント大会は2011年10月7日(金)~9日(日)、韓国ソウル市の衛星都市ソナム市(城南市)で開催されました。手元のメモによれば、韓国より149人の参加。日本より339人の参加。宿舎兼大会会場はセマウル運

動研修所でした。開会式を行ったホールでは、夜になり、公式プログラムの後にカラオケ大会がありました。そこでは、韓国側がビール等を準備しましたが、日本側でそのお金を支払った者は記憶の中ではないません。大会後遠足は、閉会式の翌日9時に3台のバスで出発し、1泊して、お寺や、ロープウェイに乗って山に登ったり、朝鮮半島の東の海岸などを訪れました。

それから7年後の本年の日韓共同開催エスペラント大会なのですが、私は主に奈良が観光地として優れていることを紹介して参加を促そうと、韓国ソウルで2017年10月21日(土)~22日(日)に開催された第49回韓国エスペラント大会に参加しました。奈良の韓国語版観光地図を配布し、プロジェクターを使って説明もしました。それが効果を上げたのか、韓国側の責任者のHo Songさんの参加人数見積もりは70人から100人に増えました。エスペラント普及会(亀岡)の越年合宿に韓国からの参加が思いのほか多く、日韓共同開催大会に参加するために会話を上げたいと、盛り上がっているというのです。

マスコミ・ミニコミ、あるいは出版物において「反日」や「嫌韓」といった言葉が見られます。まるで、ザメンホフがエスペラントを作ることを思い立った時代ようです。エスペラントはマスコミ・ミニコミ・出版物情報に頼らず、直に語り合うための道具ですし、エスペラント界はそのような世界です。木村護郎クリストフさんはその本の中で誰かの言葉を引用して「エスペランティストは会う前から相手のことを友達だとみなしている」と書いています。

少し話はそれますが、日本で韓国語を勉強している人は多く、日韓共同開催大会のプログラムで、その様な日本人のために、来日する韓国人と会話する機会を作れないだろうかと思いつきました。韓国側に相談しますと「それはいい。お金もかからないし」とのことでした。これから、実現のための方策を探っていきたいと思います。

大会の公開講演会は、奈良県図書館情報館館長の千田稔さんをお願いしています。日本の仏教が朝鮮半島を経由して来たことから、「日本における仏教文化の成立」というテーマで話していただきます。千田さんには、2010年に奈良で開催した第58回関西エスペラント大会においても「平城京と遣唐使」で

講演をしていただいています。公開番組にはバレエの出演もあります。奈良県王寺町にエスペラントに関心を持っていただいている“Ballet Studio Esperante”、和文では「バレエスタジオエスペラート」というバレエスタジオがあります。小さい子供たちから成人まで毎日バレエを楽しんでいます。このスタジオの生徒たちに友情出演をしていただけることとなりました。私達と似たケースでは毎年奈良で開催されている「日本骨髄バンク推進大会」等にもスタジオの生徒達が積極的に参加出演されています。

他にも公開講演を折衝中です。公開講演会は、エスペラント界の市民に提供する無料の文化講演会であり、エスペラントのことも理解を深めていただく機会だと思っています。

第2回 日韓共同開催エスペラント大会

第105回日本エスペラント大会
第50回 韓国エスペラント大会



La 2-a Komuna Esperanto-

Kongreso de Japanio kaj Koreio

La 105-a Japana Esperanto-Kongreso

La 50-a Korea Kongreso de Esperanto

日時 2018年10月12日(金)～14日(日)

会場 奈良県文化会館

主催 一般財団法人 日本エスペラント協会
社団法人 韓国エスペラント協会
一般社団法人 関西エスペラント連盟

大会後遠足 10月15日(月)～16日(火) 行先未定

懇親夕食会 10月13日(土) 18時半～20時半、
ホテル日航奈良 飛天の間

日韓共同開催大会 informilo (2017年12月号) の訂正

「大会参加費など」の17項：

天理教信者詰所朝食付宿泊 1250円→1450円

(信者以外の宿泊費 1200円+朝食 250円)

なお、大会後遠足の行き先も、より楽しい内容にしようと再検討中です。

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (62)

相川 節子

接続詞 (15) sed

単純に「しかし」の意味で使われる場合と、「○ ○ではなくて□□」という表現に使われる場合があります。

Li laboras diligente en ĉiu tago, sed restas malriĉa.

(彼は毎日まじめに働いているが、貧しいままだ)

Ekstere estas malvarme, sed estas agrable en la ĉambro.

2018.2

(外は寒いが、部屋の中は心地よい)

上記のような使い方は日本語と同じなので、わかりやすいと思います。

“Ĉu vi mendos kafon?” “Ne, mi ne mendos kafon, sed teon.”

(「コーヒーを注文する?」「いや、コーヒーでなく紅茶にする」)

こういう sed の使い方は、文法の本には必ずできてきますが、個人的な経験から言えば、実際の日常会話で使われる機会はそんなに多くありません。ですからこの用法に習熟する必要はないでしょう。ただ、本などで出会ったときに、そんな使い方もあったなと思い出せる程度には知っておいてください。



①今日は2時に来客がある。

【訳例1】Hodiaŭ mi havos gaston je la dua. (CA)

【訳例2】Hodiaŭ ni havos la gaston je la 2a posttagmeze. (〔綴り修正〕T.Ku)

【訳例3】Hodiaŭ venos gasto je la 14a horo. (AG)
客:gasto.

「2時」は、たぶん午後2時のことですね。少し長くなりますが、訳例2のようにすればはっきりするでしょう。24時間制の時刻表記なら、訳例3のように表現できます。日本の時刻表記の基準は、改暦に関する明治五年の太政官布告らしく、午前零時から午前十二時までが午前で、午後は午後一時から午後十二時までのようです。

「来客」は *gasto* でいいでしょう。*bangasto* (湯治客) や *gastama* (客好きの) の用例があります。広い意味で「訪問者」と解釈すれば *vizitanto*、「顧客」と考えれば *kliento* でもいいと思います。

②その実業家と取引交渉をする。

【訳例1】Mi traktos negocon kun la aferisto. (CA, ヒー坊, ikona)

【訳例2】Ni traktos negocon kun tiu aferisto. (T.Ku)

【訳例3】Mi intertraktos kun tiu aferisto. (AG)
取引:negoco.

交渉する:trakti.

「実業家」は生産、売買など経済的事業を営む人ですから、*aferisto* (取引関連に従事する人、支配人) が使えます。「取引」は *negoco*、「交渉する」は *trakti* なので、*trakti negocon kun iu* (～と取引交渉する) で表現できるでしょう。

trakti は合意に達するために条件を議論することですが、*negoco* は利益追求の業務です。*negoco* には *negocisto* (ブローカー) という表現もあります。単なる交渉ではなく「値切る」のは *marĉandi* (安く手に入れるために議論する) です。

訳例3の *intertrakti* は、複数の人物や党派で会談する、交渉するという意味です。交渉する内容は *pri* で示します。*intertraktado* は「ネゴシエーション」に相当します。日本語との対応関係の違いに注意が

必要です。*trakti* (交渉する、取り扱う) を含む語には *pritrakti* (論じる)、*mistrakti* (乱用する、虐待する) などもあります。

③今、彼は父の客になっている。

【訳例1】Nun li gastas ĉe mia patro. (Fumi)

【訳例2】Nun li estas gasto de mia patro. (drako, ヒー坊, Ivajo, Eiko)

【訳例3】La aferisto estas kliento de mia patro nun. (〔綴り修正〕T.Ku)

訳例1は *gasto* (客) の動詞 *gasti* を使っています。無料、あるいは有料で客となっているという意味です。場所は *ĉe* や *en* 等で示します。*gastejo* は「宿泊所」、*gastado* は「滞在」になります。他に *gastiĝi* は「客となる、泊まる」の意味で、「客として迎える、泊める」場合は *gastigi* です。

訳例3は別の解釈です。「今その実業家は父の顧客である」でしょうか。「父」は弁護士 *advokato* か、医師 *kuracisto* かも知れませんね。

④なぜ、彼が来ないと思うのか?

【訳例1】Kial vi pensas, ke li ne venos? (drako, CA, ヒー坊, Fumi, M.H.)

【訳例2】Kial vi supozas, ke li ne venos? (Eiko)

【訳例3】Kial vi sentas, ke li ne venos? (水渡)

【訳例4】Kial vi opinias ke li ne venos? (T.Ku)

【訳例5】Kial vi konjektas, ke li ne venos? (Ivajo)

「なぜ〜か?」は *kial* (なぜ) を文頭に置けば表現できます。*jes* か *ne* の答えを期待する *ĉu* は必要ありません。

訳例には、「思う」という意味のある動詞がいろいろ出ています。*pensi* は中立的な「考える」です。他の *supozi* は「推測する」、*senti* は「感じる」、*opinii* は「意見である」、*konjekti* は「推量する」という意味です。

訳例2の *supozi* は、確かな証拠は無いが来ないと思える、訳例3の *senti* なら、来ない気がするという感じですが。この *supozi* は「仮定する」としても使えます。*senti* は感覚的なもので、*pensi* より弱い表現になります。質問されても、答えを言葉にできない場合もありそうです。

訳例4の *opinii* は、彼は来ないという意見、見解であり、訳例5の *konjekti* は、彼が来ないことはあり得るという意見になります。

成績は p.14、新しい課題は p.15。

人類は永遠平和を実現できるのか。カントが提唱する「常備軍の廃止」は理想にすぎないのか。理想と現実の間で、悲観主義と楽天主義の両極端に片寄らないことが大切だろう。

Mi iam legis “Al Eterna Paco”, verketon de *Immanuel Kant*. Ĝi konsistas el ses enkondukaj artikoloj, tri definitivaj artikoloj, du suplementoj kaj du apendicoj. Interalie notinda estas la tria enkonduka artikolo, kiu apelacias al abolo de regulaj armeoj, same kiel la naŭa artikolo de la Konstitucio de la Regno Japanio.

Li skribas: “Regulaj armeoj senĉese minacas aliajn ŝtatojn per milito, per ĉiama preteco por atako. Ili instigas senfinan reciprokan konkurencon de armeaj fortoj kaj plimultigas elspezon por eventuala milito; portempa paco tiel tenata fariĝas pli ŝarĝiga ol mallonga milito. Por eviti ŝarĝon, regulaj armeoj mem kaŭzas anticipan atakon.”

Laŭ *Kant*, paco ne estas natura stato inter la homoj, sed devas esti kreita. Li pensis, ke por realigi eternan pacon sur la mondo devas esti starigitaj la tri bazoj: (1) Respublika konstitucio en ĉiuj ŝtatoj. (2) Internacia juro surbaze de la koalicio de liberaj ŝtatoj. (3) Monda civitana juro cele al amikeco inter popoloj. Kaj li konkludas, ke la vera eterna paco ne estas vanta ideo sed estas tasko iom post iom plenumenda, ĉar al ĝi ne mankas reala bazo kaj ĝi estas nia devo.

Kiel ni nuntempuloj respondu al lia apelacio? Nemal multe da homoj eble forĵetas ĝin, dirante ke ĝi estas tro idealisma kaj optimisma. Laŭ ili, ankaŭ la naŭa artikolo de la Japana Konstitucio estas tro idealisma, kaj Japanio devas amendi ĝin por havi proprajn armeojn. Ĉu do eterna paco estas nenio alia ol

iluzio aŭ revo?

Certe necesas vidi la realan figuron de la mondo, ne nur babilante pri idealo. Sed kiel eblas homeca vivo sen idealo? Se ni vivus sen idealo, kial necesus politiko kaj kulturo? Bone, ni vidu la realon. La minaco de milito troviĝas, kaj tial ni devas nin prepari, inkluzive de armeoj. Armea forto tamen ne garantias pacon. Ĝi similas al asekuo, kiu ne garantias longvivecon. La bazo de longa vivo estas taŭgaj manĝado, sporto kaj kuracado. Tiel same, la bazo de paco estas amikeco, negocado, demokratio k.t.p.

Kelkaj opinias, ke malinstiga forto de nukleaj armiloj estas utila. Teorie tiu ĉi opinio ŝajnas valida, sed ne ĉiam. Ekzemple, bankrotiĝanta/-onta ŝtato ne timas venĝan atakon. Teroristoj ne havas teritorion, kiun aliaj ŝtatoj povas ataki. Ankaŭ troviĝas la ebleco de eventuala eksplodo de nukleaj armiloj, ĉu tio estas intenca, ĉu akcidenta. Subtenantoj de nukleaj armiloj devas vidi la realon.

Ĉu la homaro povos finfine atingi eternan pacon? Miaopinie, eble jes, eble ne. Sed ni iom post iom progresas. Nur lastatempe ni ekopiniis, ke milito estas peko, sed antaŭe ne. Venkintoj en milito estis laŭdataj kiel herooj. Nur malmulte da sanktuloj instruis, ke ni devas ne damaĝi viv-estaĵojn. Sed ilian predikon oni ignoradis. Ĉie ajn regis krueleco kaj despotismo. Invadi kaj ekspluati aliajn landojn estis pravigite sub la nomo de civilizacio. Nuntempe multaj homoj en la mondo akuzas invadan militon. Por komenci militon ŝtataj gvidantoj bezonas ian motivon por pravigi sin. Tio estas grava progreso por la homaro. La opinio, ke milito neniam malaperos, estas tro pesimisma. La opinio, ke armea forto ne necesas, estas tro optimisma. Ni devas stari inter la du ekstremoj. Senĉesa klopodado per diplomaciaj rimedoj kaj per transnaciaj interŝanĝoj tre probable kondukos al pli bona mondo.

Rondo Hajkista (55)

HIROTAKE Masaaki (広高 正昭)

日本語の俳句は、自由律もありますが、ふつうは五七五の定型詩です。エスペラントの hajko はカロチャイ以来、5-7-5 音節の3行定型詩として確立されてきました。日本語俳句とエスペラント hajko は形式的に同一です。Hajkista Klubo の “Hajka antologio”(1981) は古今の日本語俳句を定型でエスペラント訳した労作です。

しかし最近、日本語の定型俳句を3行非定型でエスペラント訳した作品やエスペラントの定型 hajko を3行非定型で日本語訳した作品を続けて目にしました。翻訳者の判断はそれなりに尊重されるべきでしょう。ただ、どちらの言語にも定型の詩形式が確固として存在するにもかかわらず、非定型で訳すというのは詩の翻訳の在り方として果たしてどうなのか。疑問に感じたことを提起しておきます。

Ĉi-foje kvar legantoj kontribuis sume 11 hajkojn. Dankon al la kontribuintoj. Asterisko post aŭtora nomo indikas pecon modifitan de la elektinto.

Griza birdeto

formanĝos ruĝajn berojn —

Pluvadas neĝe (Takesi)

En malvarma pluvneĝo birdeto manĝas fruktetojn tiel diligente kiel ĝi formanĝos ĉiujn. Impresas ruĝo en grizeca fono. Kortuŝas vivenergio de la birdeto en la severa naturo.

Ho, neĝhometo!

Kiu faris tiun en

frua mateno? (Yuko)

Matene ekster la domo la aŭtoro ĝojas trovinte malgrandan neĝfiguron. Admirinde estas, ke la farinto vekigis kaj laboris tiel frumatene.

Neĝo-statuo

brilas kun okulgloboj

el lignokarboj.

(Joŝi)

Ĉarma neĝa figuro staras brile en matena suno. “Neĝostatuo” unue pensigis min grandan neĝfiguron konstruitan ekzemple en Neĝa Festivalo en Hokajdo. Sed laŭ la aŭtoro temas pri simpla “neĝohomo”. La Japana-Esperanta Vortaro de Miyamoto donas ambaŭ tradukojn al “雪だるま”. Ĉu mi devas modifi mian lingvosenton prie? Malgraŭ la vortaro mi ŝatas nuanci la du vortojn: neĝostatuo kaj neĝohomo. Kiel vi pensas?

ŝatis paneron

anasoj amasiĝis

apud lageto

(Tokie)*

La frazkonstruo ne estas glata. Prefere unu verbo en unu frazo. “Ŝati” kaj “amasiĝi” estas banalaj. Estas grave kiujn vortojn elekti. “Anaso” ne ĉiam estas sezonvorto. Kiam ĝi indikas “domanaso”-n, ĝi ne havas sezonecon. Jen modifa provo mia. Meti tranĉon estas utila metodo por fari pli-malpli ŝatindan hajkon.

panerojn bekas

anasoj kunpuŝantaj —

vintra lageto

Je la fino jen mia peco.

en supo naĝas

pecoj de sojkazeo —

vintra mateno

モバード俳句投稿案内 (5月号に掲載予定)

- temo (兼題) : 自由題。春の季語を詠みこむ。
(複数投句の場合は無季句を含んでも可)
- 郵送の場合 : 作品 (3句まで) とローマ字書きの筆名、住所氏名を記載。送り先は、
〒832-0073 柳川市鍛冶屋町 39 広高 正昭
- 電子メールの場合 : 内容は郵送の場合と同じ。
送り先は、hirotk-m@nifty.com
- 締切 : いずれの場合も2月28日必着。

Yomogifu – La Ruindomo (5)

eljapanigis belmonto

Ŝi kurigis la ĉaron kun kontenta mieno, kaj venis sen anonco. Akompanantoj provis malfermi la pordon, kiu vidiĝis malbela kaj malriĉa. La ambaŭ pordoklapoj dekstra kaj maldekstra preskaŭ disfalis kliniĝinte, kaj viroj brue laboris malfermi ilin. La ĉaro palpe iris “tri padojn sovaĝajn”, trovitajn en ĉi tiu ruiniĝinta domo, kiel en la poemo de *Toŭ Jenmej**¹.

Ĝi apenaŭ venis inter kolonoj de la suda ĉambro por oficialaj gastoj, kies kradfenestroj estis levitaj. Kartamo ne sciis kiel regali, kaj metis vandokurtenon malbele fulgan dum jaroj, por septo inter la gasto. *Ĵiĵu* aperis por akcepti ilin. Kartamo tute velkiĝis je la trajto. Dumjara peno tre konsumis ŝin, sed ŝi tenis sin bela kaj humila; la onklino eĉ volis interŝanĝi sian vizaĝon kun Kartamo, kun respekto.

“Mi decidis foriri, sed ne povas forlasi vin en doloro; mi venis por inviti *Ĵiĵu*. Vi rifuzis akcepti mian proponon por mia malĝojo, kaj ne vizitis min eĉ unu fojon. Do, permesu al mi preni ŝin sola kune. Kial vi restos en ĉi tia barbareco?”

Ordinara homo devus plori je tia sceno. Sed ŝi estis agrabla, supozante riĉan vivon en la postenlando.

“Kiam la princo vivis, li forpelis min kiel malhonoran homon el la princa familio. De tiam mi fariĝis ne intimaj al via familio, sed mi mem ne estis senatenta pri vi dum jaroj. Vi estis fiera kiel nobla persono, kaj aldone mi respektis vian destinton, ke la *dajŝaŭo**² kutime vizitis vin, tial timeme estis alproskimiĝi intime al vi, sed dume jaroj forpasis. Ĉar la aferoj en la mondo ne estas senkonstantaj, homo kiel mi, ne kalkulata en gravuloj, estis kontraŭe kvieta. Mi vidis vin 2018.2

面もち気色ほこりかにももの思ひなげなるさまして、ゆくりもなく走り来て、門(かど)開(あ)けさするより、人わろくさびしきこと限りもなし。左右(ひだりみぎ)の戸もみなよるぼひ倒れにければ、男(をのこ)ども助けてとかく開(あ)け騒ぐ。いづれか、このさびしき宿(やど)にも必ず分(わ)けたる跡あるなる三つの径(みち)とたどる。

わづかに南面(みなみおもて)の格子(かうし)上げたる間(ま)に寄せたれば、いとどはしたなし、と思したれど、あさましう煤(すす)けたる几帳(きちょう)さし出でて、侍従出で来たり。容貌(かたち)などおとろへにけり。年ごろいたうつひえたれど、なほものきよげによしあるさまして、かたじけなくとも、とりかへつべく見ゆ。

「出で立ちなむことを思ひながら、心苦しきありさまの、見捨てたてまつりがたきを、侍従の迎へになむ参り来たる。心うく思し隔てて、御みづからこそあからさまにも渡らせたまはね、この人をだにゆるさせたまへとてなむ。などかうあはれげなるさまには」

とて、うちも泣くべきぞかし。されど行く道に心をやりて、いと心地にげなり。

「故宮(こみや)おはせし時、おのれをば、面(おもて)ぶせなり、と思し棄てたりしかば、疎(うと)々しきやうになりそめにしかど、年ごろも何かは。やむごとなきさまに思しあがり、大將殿などおはしまし通ふ御宿世(すくせ)のほどをかたじけなく思ひたまへられしかばなむ、睦(むつ)びきこえせんも憚ること多くて過ぐしはむべるを、世の中のかくさだめもなかりければ、数ならぬ身は、なかなか心やすくはべるものなりけり。及びなく見たてまつりし御ありさまのいと悲しく心苦しきを、近きほどは愈るをりものどかに頼もしくなむはべりけるを、かく遥(はる)

multe prosperanta kaj ne alproksigema, sed nun en mizero, por mia malĝojo. Kiam ni loĝis proskime, mi kredis, ke ni parolos libere iam ajn. Sed ĝuste nun, ironte foren de vi, mi ekhavis maltrankvilon kaj kompaton.”

Al ŝia persvado, Kartamo ne respondis familiare.

“Koran dankon pro via invito. Sed mi estas fakte strangulo, tial... Mi pereu kun mia domo.”

Ŝi diris nur tion. La onklino daŭrigis sian rekomendon.

“Tute nature, ke vi pensas tiamaniere. Sed ne ekzistas antaŭa ekzemplo loĝi en terura domo, preskaŭ forĵetante sian vivantan animon. Estas kredinde, kiam la *dajŝaŭo* renovigos la domon polure, tiam aperos la brilanta konstruaĵo denove. Sed *Genĝi* nun amas nur Violon, la filinon de *Ŝikibukjaŭ**³, kaj ne havas frivolan aminklinon. Mi aŭdis, ke li forlasis tiajn virinojn, antaŭe amitajn en facilanimo. Antaŭ ĉio, tre malfacile estas, ke li vizitos tiun, sopiranta nur al li en pura koro, loĝante senhelpa en tia sovaĝa kampo!”

Kartamo pensis tiun diron ĝusta kun malĝojo, kaj ŝi ekploris melankolie.

Sed ŝi ne ŝanĝis sian koron. La onklino presvadadis ŝin dumtage, kaj finfine diris.

“Do, mi kunprenos *Ĵiĵu* sola nun.”

Ŝi hastis reveni antaŭ la vesperiĝo. *Ĵiĵu*, surprizite de la subita decido, plore konfesis al Kartamo.

“Do, mi iros hodiaŭ por eskorti ŝin, estimante ŝian rekomendon. Al mi ŝajnis rezone, ke ŝi tiel proponas. Sed mi bone komprenas, kial vi hezitas. Aŭskulti ambaŭ opiniojn estas dolore al mi, meze starante inter vi.”

Kartamo aŭskultis ŝin kun antipatio kaj malĝojo, ke ankaŭ ĉi tiu intimulo forlasos ŝin, sed ŝi havis nenian rimedon reteni ŝin! Kartamo ploregis el sia tuta gorĝo.

*1 陶淵明, 陶潛. 365 - 427.

*2 '*dajŝaŭo*' estas la rango de *Genĝi*.

*3 iom konfuzite skribita. Li estas nomata

かにまかりなむとすれば、うしろめたくあはれになむおぼえたまふ」

など語らへど、心とけても答(いら)へたまはず。

「いとうれしきことなれど、世に似ぬさまにて、何かは。かうながらこそ朽ちも亡せめとなむ思ひはべる」
とのみのたまへば、

「げにしかなむ思さるべけれど、生ける身を棄てて、かくむくつけき住まひするたぐひははべらずやあらむ。大将殿の造り磨きたまはむにこそは、ひきかへ玉の台(うてな)にもなりかへらめとは、頼もしいははべれど、ただ今は式部卿宮の御むすめより外(ほか)に心わけたまふ方もなかなり。昔よりすぎずきしき御心にて、なほざりに通ひたまひける所どころ、みな思し離れにたなり。まして、かうものはかなきさまにて、藪原(やぶはら)に過ぐしたまへる人をば、心清く我を頼みたまへるありさまと、尋(たづ)ねきこえたまふこと、いと難くなむあるべき」

など言ひ知らするを、げに、と思すもいと悲しくて、つくづくと泣きたまふ。

されど動くべうもあらねば、よろづに言ひわづらひ暮らして、

「さらば、侍従をだに」

と、日の暮るるままに急げば、心あわたたしくて、泣く泣く、

「さらば、まづ今日は、かうせめたまふ送りばかりに参(ま)うではべらむ。かの聞こえたまふもことわりなり。また思しわづらふもさることにはべれば、中に見たまふるも心苦しくなむ」

と忍びて聞こゆ。この人さへうち棄ててむとするを、恨めしうもあはれにも思せど、言ひとどむべき方もなくて、いとど音(ね)をのみたけきことにてものしたまふ。

'*Fjaŭbukjaŭ*' en la 14-a volumo "Navigmarko". Ĝi fiksiĝas '*Ŝikibukjaŭ*' de la 21-a volumo "La Dancistino".

動詞仮定法について (1)

沖 恵明 (兵庫県)

(編集部より)

沖恵明さんから、仮定法についての解説文を編集部にいただきました。読者のみなさんの知識の整理に役立てばと、2回に分けて掲載します。

動詞の語尾には、-i, -as, -is, -os, -us, -u があり、bati(不定) batas(現在) batis(過去) batos(未来) batus(仮定) batu(命令)のように、動詞の語幹と一緒に使われます。その中で、最も理解しにくいのは、-us が使われる仮定法ではないでしょうか。今回、この -us を取り上げて、一緒に勉強してみましょう。

仮定法というと、非現実的なこと、とても実現しない願望、そして、丁寧な依頼などに対して使用される用法として理解されていると思います。さっそく、例を挙げて説明していきましょう。

I. 基礎編

1. 仮定の話述べる

1-1. Se mi estus birdo, mi flugus libere en la aero.

もし、私が鳥であったら、自由に空を飛ぶのだが。

この仮定法による記述に対して、次の文が既定の事実として認識されるでしょう。すなわち、

1-2. Mi ne estas birdo, tial mi ne povas flugi libere en la aero.

私は鳥ではないので、空を自由に飛べない。この 1-2 の文は明確に鳥であることを否定し、飛べないことも事実として述べています。それに対して、1-1 の文には、自分は鳥ではないし、飛べないことも承知していますが、鳥になりたいという願望が述べられており、それが自由に空を飛びたいという気持ちにつながっています。

2. 願望を表す

2-1. Ho, se mi estus riĉa!

私が、金持ちだったらなあ!

この 2-1 は、金持ちになりたい、という気持ち

がこもっています。しかし、-us が使われていることから、実現し得ないことを表しています。この文に対して、

2-2. Ho, mi ne estas riĉa!

私は、金持ちではないのだなあ!

この 2-2 の文を 2-1 の文と比較すると、意味するところは同じですが、2-1 は金持ちになりたい、という思いが込められているが、2-2 は、絶望の縁に追いやられた感じがしませんか。

3. 丁寧な依頼をする

3-1. Ĉu vi bonvolus doni al mi la pomon?

そのリンゴをいただけませんか?

3-2. Ĉu mi povus eniri en vian ĉambron?

あなたの部屋に入ってもいいでしょうか?

3-3. Mia filo dezirus manĝi bifestekon.

私の息子は、ビーフステーキを食べたいのですけれども…

3-4. Mi estus tre ĝoja, se vi ludus pianon por mi.

あなたが私のためにピアノを弾いてくれたら、私はとても嬉しいのだけれども…

上記の 3-1 から 3-3 までの例に使われている bonvolus, povus, dezirus は品詞語尾 -us なので、仮定法です。しかし、動詞 bonvoli, povi, deziri は依頼、許可、希望などの意味を持った動詞であり、後につづく動詞不定形 doni, eniri, manĝi (bonvolus, povus, dezirus の目的格) に作用し、それらの行為についての依頼、許可、希望の意志を相手に伝えます。つまり、3-1 「ほしい」、3-2 「入りたい」、3-3 「食べたい」という気持ちを相手に伝えることとなります。それらの単語をこの仮定法の形で使用することによって、とても丁寧で、控えめな依頼、願いなどを示す働きをします。他に、volus も使えます。

また、3-4 は、他の 3 つに使われている依頼、許可、希望を表す単語は使用されていませんが、従属節に vi ludus という条件 (se) のもと、ĝoja(嬉しい)という単語を使い、似た効果を上げています。ĝoja を使うことによって、とても控えめな願いを表すことができます。ĝoja と同じように使える単語として feliĉa があります。

3-4 の用法について、もう少し説明をします。こ

の複文の従属節に *se* を使っていることで、相手が「行動を起こせば」(ここでは、*ludus* がそれにあたります。) という条件を提示しており、主節には、暗に依頼を表す効果 (*Mi estus tre ĝoja*) を持つ節になっています。ただ、主節従属節のどちらにも *-us* を使っているので、仮定法になっており、本来、実現不可能なことを表していますが、実用的には、とても丁寧で、控えめな依頼や願望を表すことに用いられる表現の一つとなっています。

II. 応用編

1. *povus*, *volus*, *devus* を用いた文

ここで、*povus*, *volus*, *devus* の単語を用いた文について考察してみたいと思います。

1-1. *Mi povus kouri ĝin*.

“私はその料理が作れるのだけれども…” という意味です。しかし、実際は料理しない。

1-2. *Mi volus viziti Francion*.

“私はフランスを訪問したいのだけれども…” という意味です。しかし、実際には行かない。

1-3. *Mi devus preni la medikamenton*.

“その薬を服用しなければならぬけれども…” という意味です。しかし、実際は服用しない。事実として、1-1 “本当は料理ができる”、1-2 “フランスを訪問したい気持ちがあるのは事実である”、1-3 “薬を絶対服用しないとイケない” ということです。事実であるけれども、実際は、1-1 料理しない、1-2 訪問しない、1-3 服用しない。可能、希望、義務はあるのだけれど、実際は実現しない事柄であることを示しています。

2. 仮定法と時制

仮定法 (*-us*) は、時制を表すことができません。文脈で時がはっきりしない場合、現在、過去、未来を表すためには、*nun*, *hierauŭ*, *post du jaroj*, *en la venonta jaro* などの時を表す単語や句などを添えることによって、明確にすることができます。

Se mi estus tie hierauŭ, mi renkontus lin.

昨日、もし私がそこにいたのなら、彼に会えたのに…

ということで、過去のある一点を指すことができます。しかし、この文もあくまで仮定法なので、実際にはそこにいなかったし、彼に会ってもしないことを述べています。

3. 条件法 (*se*) と仮定法 (*-us*) の関係

se を使った文が、必ずしも *-us* (仮定法) を使うわけではありません。*-as*, *-is*, *-os* が使われる条件法もあります。

3-1. *Se ŝi povos gajni multe da mono, ŝi aĉetos domon.*

もし、彼女が沢山のお金を稼ぐことができるなら、彼女は家を買うでしょう。

この文に対して、*-us* を使った次の文はどうでしょうか。

3-2. *Se ŝi gajnus multe da mono, ŝi aĉetus domon.*

もし、彼女が沢山のお金を稼ぐことができるなら、彼女は家を買うのでしょうか…

3-1 と 3-2 の違いはどこにあるのでしょうか。3-1 は、“沢山のお金を稼ぐことができるなら” という条件を付しています。それが可能なら、“家を買う” という夢が実現します。しかし、3-2 は違います。彼女は沢山のお金を稼ぐことはできない、という前提に立って、彼女は家を買うことができない、と言っています。*-us* を使わないで表現すると…

3-3. *Ŝi ne povos gajni multe da mono, tial ŝi ne aĉetos domon.*

彼女は、沢山のお金を稼ぐことはできないでしょう。だから、彼女は家を買うことはしないでしょう。

3-2 は、仮定法なので、沢山のお金を彼女が稼ぐことは非現実的なことだと、と述べています。それを、3-3 の否定文を用いた表現で述べると、ソフトな感じはなく、聞いていて、あまり気持ちのいいものではありません。しかし、*-us* を使った肯定文で表現すると、柔らかい感じになります。声を出して言うてみてください。その違いを体感できるでしょう。(続く)

※参考文献は次号にまとめて掲載します。

追悼

深堀さん、長い間ありがとうございました

盛脇 保昌（長崎市）

深堀義文さんは、森祥寅元会長が辞意を表明されたあと、長崎エスペラント会の会長を1986年から2016年まで、31年の長きにわたり続けてくださいました。また、九州エスペラント連盟の会長を1998年から2007年まで、10年間務められた。

1946年大学生のときにエスペラントを始められ、英エス辞典を筆記で写し取ったと聞き、驚いた記憶がある。エスペラントの速記も早くからやられ、エスペラントを含む国際速記の自習書を2冊出版されている。長崎市内を深堀さんとふたりで歩いていたり、たまたま当時の伊藤一長市長と会い、伊藤市長の方から、「先生お元気ですか？」と声をかけられことがある。長崎西高での深堀先生の温かい指導が印象に残っていたのだと思う。

1988年から2001年まで、長崎エスペラント会の機関誌Verda Havenoをほぼひとりで発行された。2010年に長崎で日本大会を開催することになったとき、地元実行委員会の会長に就任され、東奔西走し、大会を成功に導かれた。

Yahoo にブログを開き、“Kiu mi estas?”の書庫に休むことなく、毎日投稿され、携帯電話で解答者に返事を書かれていた。病室では、弱った体ながら、看護師さんへ教えるために、エスペラント学習書を10冊取り寄せられた。

毎月の長崎エスペラント会の勉強会では、よく調べられたエスペラント作文を書かれていたが、それを、もう見ることができないことは残念でならない。

最後に、深堀さんが91歳で亡くなられる2か月前に、長崎で開催された第91回九州大会に出されたエスペラントメッセージの最後の言葉を捧げます。Vivu Esperanto!



2007年横浜 UK で
左が深堀さん、右が筆者



図書館を訪問して

野村 忠綱（熊本県）

11月30日、宇土市立図書館のボランティア団体の研修会の一員として、福岡県大木町立図書館、熊本県山鹿市立図書館こもれび館を訪問した。

大木町立図書館は2010年開館した新しい図書館であるが、エスペラント関係図書は1冊あった。ここでは福岡県図書館の指導で購入図書を決めたということである。山鹿市は宮崎巖（伊東三郎）・公子夫妻の墓があることで知られている地である。こもれび図書館には1冊もエスペラント関係図書は無かった。但し、市内のもう一つのひだまり図書館には2冊のエスペラント関係図書があるとのことだった。我々訪問団と館長及び主任司書との懇談の席で、野村は宮崎夫妻のことを話し、このような文化人と縁の深い地であるから、夫妻の関係資料の集積に努めるようお願いした。

La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La M

今年もワン・ワールド・フェスに参加

関西エスペラント連盟は、大阪市北区で行われる「第25回ワン・ワールド・フェスティバル」に参加する。国際交流活動をしている諸団体が参加する行事で、関西連盟としては5回目の参加になる。ブース展示のほか、トークセッションも行う。

日時：2月3日（土）4日（日）10時～17時

会場：カンテレ扇町スクエア

北区民センター

扇町公園

アクセス：JR 天満駅西すぐ

地下鉄堺筋線扇町駅北すぐ

トークセッションは、4日（日）10時から11時まで、北区民センター1階第1・2会議室で。テーマは「ワクワクする国際語エスペラントの世界」。

なお、扇町公園の会場では「みんなのキッチン」が開催され各国料理が食べられる。モンゴルのゲルが設置され、歌や民族衣装の試着も行われる。

[← KLEG 組織部 木元 靖浩]

各地でザメンホフ祭 (エスペラント祭)

(記事中、E= エスペラント)

福井

福井E会は12月10日14時から17時まで、福井市順化公民館でザメンホフ祭を行った。参加者は8人。

まず“La Tagiĝo”の歌唱練習。次にミニ・スピーチで、これは各人があらかじめ原稿を北川昭二さんに送り、全部を印刷したのを見ながらスピーチを聴き、それを話題に語り合った。その後はゲームで、E版「魚・鳥・木、申すか申すか」を楽しんだ。日本E協会からの委託による書籍販売があり、本の紹介も。

18時から場所を変えて居酒屋で忘年会。7人が参加した。 [←北川 昭二]



京都

京都E会・近江E会・宇治城陽E会は12月9日に合同エスペラント祭を行った。会場は大山崎ふるさとセンターで、参加者は21人。

午前中はアサヒビール大山崎山荘美術館を見学、13時半からプログラム開始。まず笹沼一弘さんが、ソウルで開かれた世界大会について、各場面をプロジェクターで映写しながら報告。次に森川和徳さんが「ザメンホフ・クイズ」を12問出題。難問ぞろいで全問正解した人はいなかったが、高得点の4人に会場でのみ有効の図書券が贈られた。



休憩のあと、光川澄子さんと田平正子さんによる寸劇“Leporo kaj Testudo”。野田淳子さんが金子みすゞの詩に曲をつけた「積もった雪」を聞かせ、野田さんの指導で“Lingvo por ni”と“La granda kantado”をみんなで歌った。司会は森川和徳さん。

[←相川 節子]

高槻

高槻E会・茨木E会・枚方E会は、12月10日11時30分から合同ザメンホフ祭を行った。会場は高槻現代劇場、参加者は13人。

第一部はレストラン錦松鶴で昼食会、その後主会場に移動。全員で“La Espero”を歌ったあと、各自が近況報告。浮田政治さんの「高槻市長濱田剛史氏の中国常州市訪問記」、中津正徳さんの「第102回世界大会のこと」、高橋晋さんの『『サピエンス全史』—エス訳の問題点」、堀田有里さん・堀田裕彦さんの『『ことのはアムリラート』現象』と続いた。

図書購買・懇親タイムのあと、山崎隆三さんの“Scenoj en kaj ekster la UK kaj JEK”を聞き、山本徹さんのあいさつで閉会した。 [←浮田 政治]

吹田

吹田E会・豊中E会・池田E会は、12月16日に北摂ザメンホフ祭を行った。今回の会場は、第66回関西大会の下見も兼ねて、千里山コミュニティセンター。出席者は20人で、内訳は池田E会6人、豊中E会7人、吹田E会4人、近江E会1人、他にタイから来日中のWarut Bunprasertさん、吹田在住の松川真木子さん。

13時半から松田洋子さんの司会で、佐藤守男吹田E会副会長の開会あいさつ、池田E会の島谷剛さんの小坂賞受賞のあいさつがあり、Warutさんの“Esperanto en Bangkoko”の講演。タイにおけるエスペラント運動の歴史を映像を使って説明した。通訳は田中一喜さん。その後、豊中E会の福田誠さんからは『節英のすすめ』の感想、吹田E会からは、3人がエスペラント相撲で読んだ本の感想を述べた。続いて豊中E会の佐野寛さんの「豊中エスペラント会の活動」の報告があった。

休憩後は、豊中E会の山野敏夫さんによる世界大会・関西大会・桂福点さんの映像紹介、震災句集の朗詠、的場勝英さんの談話“Dia favoro”と続いた。最後に、池田E会恒例の狂言「宝の槌 Maleo

de Elmeto」が、岩田好兼さん・島谷剛さんに近江 E 会の森均さんが加わって演じられた。

17 時過ぎから近所の中華料理店で懇親会を持った。参加者は 14 人。 [←大畑 賀代子]



神戸

神戸 E 会・はりま E 会は 12 月 16 日に神戸青少年会館で合同エスペラント祭を行った。出席者は 21 人。内訳は、はりま E 会 6 人、神戸 E 会は 13 人、その他 2 人。

はりま E 会による、一茶と蕪村の俳句を絵で表して映写し、それをエスペラントに訳す、という新しい発表方法は楽しく、会場は盛り上がった。また神戸 E 会による「竹中大工道具館紹介」は、今後神戸観光案内書作成への大きな一歩になると思われる。沖恵明さんは「オー・ソレ・ミオ」など 3 曲を独唱した。

書籍販売担当の森下綱子さんから、この日の売り上げは約 9 万円で、近年にない成績との報告があった。 [←磯貝 尚武]



大阪狭山

富田林 E 会・大阪 E 会・堺 E 会・奈良 E 会が合同で、12 月 16 日 13 時～17 時、大阪狭山市のさやかホールでザメンホフ祭を行った。出席者は 25 人。

2018.2

“La Espero” 斉唱のあと、長谷川テルの“Esperanto kaj Demokratio” を皆で朗読。寺島俊穂さん「エスペラント大会の楽しみ方」、寺本元子さん「中四国大会に参加して」、奈良 E 会「第九の指導」、大阪 E 会「ソウル世界大会と KLEG 大会後遠足」、堺 E 会「朗読・くずのは伝説」、富田林 E 会の手品と続いた。

富田林 E 会の会員に金沢在住者がいるという縁から、茶菓子は金沢の名菓を用意した。

お楽しみとして富田林 E 会が用意した「福笑い」をした。

ザメンホフ祭終了後、同会館のレストランで懇親会を持った。参加者 21 人。 [←藤井 由美子]



愛媛

愛媛 E 会は 12 月 16 日 12 時から 14 時まで、松山市一番町の「国際ホテル松山」でザメンホフ祭と総会を行った。参加者は 13 人。

寒い日であったが、第 1・3 土曜日の学習者 6 名と毎週木曜日の学習者 7 名が参加した。今年から学習を始めた人、初めて顔を合わせる人もあった。

今年の新年会で頂いた小鳥の親子の木工作品に彩色を施したと作品を持参した人、購入したばかりの新刊『エスペラント日本語辞典第 2 版』を持参した人、また様々な会に出席する際には口コミで学習会の存在を伝えているなど、久しぶりに近況を交換した。また、30 年度会費の納入や文書配布で会計報告が行われた。 [←西谷 照美]

徳島

徳島 E 会は 12 月 16 日 14 時～16 時、TOPIA でザメンホフ祭を行った。出席者は 6 人、司会は前藤寛さん。

全員で“La Espero” を斉唱、続いて長町重昭会長があいさつ。この 1 年の出来事をエスペラントで説明があった。清野茂博さんと遠山弘雄さんが亡く

なられたことなどが話題となった。

そのあと、全員で自己紹介。出身地、通っていた学校の名前、職歴、エスペラントの勉強を始めたきっかけなどを各自が説明した。

アトラクションでは、前藤寛さんが「コンドルは飛んでいく」をエスペラントで歌い、長町会長がフルートで「エーデルワイス」などを演奏した。

最後に“La Tagiĝo”を全員で斉唱して閉会した。

[←前藤 寛]

和歌山

和歌山緑丘会は12月2日11時～13時、「かごの屋」でザメンホフ祭を行った。出席者は6人（女性4人、男性2人）で、久しぶりのおしゃべりに花を咲かせた。自分たちが健康な内に若者を勧誘する必要性など語り合った。

写真に写っているザメンホフの絵は、中国の姉妹都市山東省の済南世界語協会から送られたもので、王永暢さんの作品。

[←江川 治邦]



福岡

福岡E会は12月17日15時30分～18時20分、福岡市国際会館でザメンホフ祭を行った。参加者は10人+子ども2人。

秋吉任子さんの開会のことばに続いて、全員で“La Espero”斉唱。次にザメンホフの詩が4篇、秋吉さん、倉元裕介さん、松本朗さん、外園恵子さん、水川尚美さんによって朗読された。全員で“Granda kantado”、“Forsaltinta banano”、“Al amiko malproksima”を歌ったあと記念撮影。寸劇“Signo de respekto”が田上和子さん、深見壽賀子さん、武藤たつこさんによって演じられた。秋吉さんによることば遊び、外園さんによる「ポルトガル話」、荻野明さんによる「週刊誌の記事から」と続き、堀ノ江善仁さんによる皿回し、松本朗さんによる鳩笛の隠し芸も。最後に全員で“La Tagiĝo”を歌った。

会場では本を持ち寄っての即売会も行い、100円均一で売って、売り上げは会の財政に。

終了後、子どもを含む10人で会食した。

[←武藤 たつこ]



宮崎

宮崎E会は12月9日14時～16時、宮崎市民プラザ4階学習室で宮崎ザメンホフ祭兼総会を行った。参加者は4人。

まず松本淳会長の、エスペラントの理想が社会になかなか分かってもらえず、さらに東京一極集中と地方の衰退が続く中、当会の今後についても検討が必要であるとのあいさつがあった。次いで近藤方彰事務局長が活動報告と会計報告を行い、了承された。その後、機関紙発行の意義について協議し、“La Praktikanto”は現行通り年4回の発行に努めることにした。定例会も現行通り月2回第1、3土曜日の午後2時から4時まで宮崎市民活動センターにて行うこととし、現在輪読中の“Vivo de Zamenhof”終了後のテキストについても検討した。入門講習会については、今年行うことができなかったので来年4月頃に必ず行うことにした。また、2019年の九州エスペラント大会の担当についても検討した。

最後に写真撮影、会費徴収を行って閉会した。

[←近藤 方彰]



第66回関西エスペラント大会

日時：5月26日（土）・27日（日）

会場：千里山コミュニティセンター

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros profesion, kies laborejo estas restoracio aŭ kafejo.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de februaro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2		3	4	5	6	7	
8			9		*			
10		11			12			13
14	*			15				
16			17		18			
		19						
		*						
	20						21	
								*
22				23		24		
*				*				
25						26		

Horizontale: 1. Malo de "majoritato".(x) 8. Gramatika finaĵo de verbo prezenca.(x) 9. sendanĝera.(x) 10. Surfaco de spegulo estas ~a.(x) 12. Sennombra kiel ~o sur marbordo.(x) 14. Iri sur aŭ en akvo kiel fiŝo.(x) 16. Sufikso signifanta inklinon por ia ago.(x) 17. Rajto de inventinto ekskluzive disponi sian inventaĵon. (x) 19. Ruĝa legomo.(x) 20. Post fulmo oni aŭdas ~on, ĉar sono estas pli malrapida ol lumo.(x) 21. Konsultu vort~on ne nur en legado, sed ankaŭ en verkado.(x) 22. En nuna Japanio oni havas sistemon "unu ~o sub unu tenoo".(x) 23. Oni vidas lumon, aŭdas sonon kaj flaras ~on.(x) 25. Parto de konstruaĵo, vertikale staranta.(x) 26. Ilo por gliti sur neĝo.

(x)

Vertikale: 1. ~o altiras feron kaj nikelon.(x) 2. Religio, kies sankta libro estas Korano.(x) 3. Manĝinte fiŝon, mi donis la ~ojn al hundo.(x) 4. Prefikso signifanta ripeton.(x) 5. La nomo de la litero "X".(x) 6. Sin purigi kaj beligi per kombilo, ŝminkaĵoj kaj ceteraj.(x) 7. Pino, kverko kaj platano estas ~oj.(x) 11. Kian ~on vi havas?" "Mi estas dekok-jara."(x) 13. Sistemo de koreaj ~oj estas tre logikaj.(x) 15. Kontraŭ peko prediku, sed pekinton ~u.(x) 17. Manĝaĵo el tritika faruno.(x) 18. La veloj de la ŝipo estis ~ita de forta vento. (x) 19. Mambesto vivanta sur arbo en Aŭstralio.(x) 20. Hodiaŭ estas ~malvarme por promeni.(x) 21. Pafi sagon per ~o.(x) 22. Prefikso signifanta komencon de ago.(x) 24. Gramatika finaĵo de verbo futura.(x)

La solvo al la decembra enigmo: PANTALONO
La ĝustan solvon donis 16 legantoj:

武藤 たつこ , 水渡 篤子 , 久保田 俱視 , 濱田 國貞 ,
前藤 寛 ,
中村 文雄 ,
西 千寿子 ,
平井 倭佐子 ,
CA,
Yo,
Sayuri,
Orion,
TADA,
Grebo,
Kacu,
にし のりこ

K	O	R	E	S	P	O	N	D
A	N	I	M	A	L			E
L	I	G		N	U	B		E
O		A	L		V	A	K	S
R	A	R		A		N	I	
I	N	D	E	K	S		O	K
	T		T	I	E	S		A
V	E	T	U	R		E	N	D
E	N		D		S	P	U	R

楽しい作文教室 (78) 成績

13 人の方から応募がありました。() 内は留意事項です。

うん、良いね : CA, 水渡, ヒー坊, T.Ku(㊦ L), AG, Eiko.

良いね : drako, Orion, Ivajo, ikona, Fumi, M.H.(vonos).

もうひといき : festo(綴り).

Mikspoto (当欄は敬称略)

★ 12月24日付『毎日新聞』朝刊の「もとをとたどれば」で、ヤクルトが取り上げられている。「ヤクルトの名称は、エスペラント語で『ヨーグルト』を意味する『ヤフルト』をもとにした造語」「『世界の多くの人が健康になってほしい』との願いを込め、世界中で使われるエスペラント語にちなんだ商品名にした」などの説明がある。 [←染川 隆俊]

★ 11月5日付『しんぶん赤旗』日曜版の「この人に聞きたい」に栗原小巻。インタビュー記事の最後に栗原は、世田谷九条の会で長谷川テルの手紙を朗読したこと、テレビドラマ「望郷の星」でテルを演じたことを話している。「長谷川テルは、戦火の中で、平和を訴えた、信念を持った女性です」と語っている。またこの記事の欄外に、「長谷川テル エスペラント語活動家。37年、中国に渡って反戦活動を展開した」という説明がある。 [←相川 節子]

★ 方正友好交流の会会報『星火方正 (せいしかほうまさ)』25号に、木村護郎クリストフが「自国中心主義を超えるために～満州国の歴史から何をどのように学ぶのか」を寄稿、研修旅行で中国東北部を訪れた体験や現地のエスペランティストとの交流を書いている。文中で、中国の学生たちが1931年に発信した“Alvoko al la tutmondo kontraŭ la japana buĉado

en Manĉurio”に触れ、「この文書では、異なる民族をつなぐことばとして提案されたエスペラントにふさわしく、自国中心主義を超える見方が示されています」と書いている。 [←大類 善啓]

KLEG 事務局だより

★ 関西地方のザメンホフ祭は、運動欄で報告されているとおり、6会場で開催され、106人が参加しました。

★ そのうち5会場で書籍やCDが販売されました。神戸会場で89,688円、大阪狭山会場で36,500円、京都会場で23,316円、高槻会場で14,796円、吹田会場で14,048円、合計では178,348円の売上がありました。

★ 5冊以上売れた本を紹介すると、以下のとおりです。

エスペラントのためのスマホ・インターネット技術集	8冊
La nanoj en domo kun granda zelkovo	7冊
さっさとエスペラント 第2版	6冊
エスペラント日本語辞典 (第2版)	5冊
日本エスペラント運動の裏街道を漫步する	5冊

『エスペラント日本語辞典』第2版は、早く開催した会場には間に合わなかったのが残念でした。

KLEG後援会へのご寄付

前月号の呼びかけにこたえて、多くの方からご寄付をいただきました。ご支援、ありがとうございます。

(2017年12月、敬称略)

大西 真一	10,000円
中道 民広	10,000円
上田 友彦	5,000円
前川 恒雄	5,000円
宮本 義人	3,100円
三瓶 圭子	3,000円
淵田 京	3,000円
三津 英子	3,000円
金森 美子	1,200円
清水 孝一	1,200円
清水 英孝	1,000円
阿部 祐之	1,000円
宝木 実	1,000円
浮田 政治	650円
河瀬 薫	600円
那須 曠正	600円
木下 恒	600円

楽しい作文教室4月号課題 (2月20日締切)

- ① 彼はアルコールを適度に飲む。
 - ② 彼は節制しているので、酔っていない。
 - ③ 彼の商品をお得に買えるだろうか。
 - ④ 私は値段について少し交渉する。
- (ヒント) 節制している *sobra*、商品 *varo*、値段 *prezo*、値切り交渉する *marĉandi*、modera、ebria、favorpreze を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

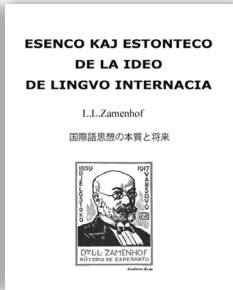
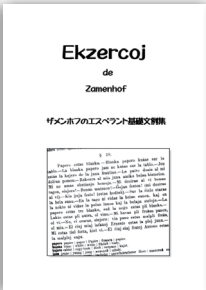
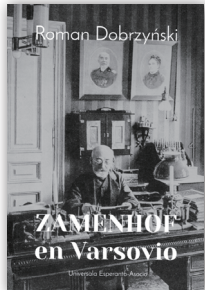
送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



★ 新刊・新着 ★

Esperanto日本語辞典・第2版 5832円
初版(2006年6月)を約340か所改訂。製本を堅牢に使いやすくなった必備の辞典。A5版、1327p.

ZAMENHOF en Varsovio 1500円
Roman Dobrzyński 著。ワルシャワに生きたザメンホフの足跡をたどる。ユダヤ人墓地やザメンホフ一族が眠る墓所の案内なども。A5版、158p.

世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー7 1200円
好評の「気ままエッセー」最新刊。被災地訪問記、世界大会やアジア大会の参加記など「世界情報」、圧巻の力作「究極の戦争遺跡—戦死者のお墓めぐり」と読みごたえ満点。B5版、256p.

源氏物語より六帖 900円
さっさとエスペラント第2版 1200円
エスペラントのためのスマホ・インターネット技術集 600円

本誌連載『源氏物語』の訳者 belmonto (やましたとしひろ)さんの著作。『源氏』は花宴・花散里・関屋・篝火・藤袴・鈴虫の対訳(92p)。『さっさと』は入門書(148p)。『技術集』はわかりやすく実践的なスマホ活用のすすめ(48p)。

★ ザメンホフに親しむ ★

Ekzercoj de Zamenhof 300円
「エスペラント基本文例集」。ザメンホフの“Ekzercoj”と“La Feino”を初心者のために再編集。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia 600円

ザメンホフによる、エスペラントの原点を示す論文。

Fundamenta Krestomatio [新版] 1200円
ザメンホフ編集の文集(Waringhien校訂)。

国際共通語の思想 1500円
水野義明編訳。ザメンホフの主要論文と大会演説を収録。

Vivo de Zamenhof 1100円
Privatが敬愛を込めて記したザメンホフ伝の古典。

★ 在庫から ★

エスペラントと平和の条件 1100円
寺島俊穂著。「平和学からみたザメンホフなど」。

簡明エスペラント辞典 1400円
見出し語4000。派生語を含めた総語数12500。

簡明日エス辞典 1400円
見出し語11000。派生語を含めた総語数は13000。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ 各地からザメンホフ祭の報告を送っていただき、ありがとうございました。誌面の都合で、いただいた原稿を少し縮めたり表現を変えた部分があります。(相川節子)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://kleg.jp
九州支局：九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話 (092) 923-2877
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町楠木字観音面14-1 木谷奉子方 電話(088)688-1098